

# 沖縄キリスト教学院第5次中長期計画 2024年度自己点検結果

## (1) 沖縄キリスト教学院第5次中長期計画

計画期間：2022年度～2027年度（6年間）

## (2) 基本方針・ビジョン

Vision70/2027 ～創立70周年の沖縄キリスト教学院のビジョン～

**沖縄に根差し、グローバルな平和交流を目指す「万国津梁の民」の育成  
いと小さき者、地域に仕える人を育成するキリスト教教育の浸透**

2020年初頭より、世界的に蔓延した新型コロナウイルスは、日本と沖縄の社会情勢にも大きな危機的状況を生み出した。当然、激動する社会的・経済的変化は、大学を含めた教育界にも大きな影響を与えている。これは、又、進行する少子高齢化と沖縄社会の貧困状況の悪化に相まって、大学進学率、入学後の休学そして退学傾向にも悪影響を及ぼしており、本学院は多大な影響をうけている。

このような激震する時代状況に鑑みて、今回の中長期計画は、本学院の根本ともいえるべき「建学の精神」の重要性を再認識する。近年、世界で注視されているSDGsは、人類の未来を持続させるための基本項目であるが、まさに本学「建学の精神」と相通じるものである。単なる継承を超えて現実の教育の場でこれを如何に止揚し敷衍するのかを問い直す。又、魅力ある大学として再出発するための検証と実行が必要である。本学院の目指すべき教育の方向性を、以下3点の「ビジョン実現のための中長期目標」で明らかにした。これらは、単なる箇条として羅列されるのではなく、相互に関連して実行されるべきものである。

## (3) ビジョンを実現するための3つの中長期目標

### 中長期目標Ⅰ. 教育の充実と学生の満足度向上

学びの充実と向上は、学生のキャンパス生活全体の満足度の基礎となる。そのため、本学の教育理念に沿った形で学生達の学力の向上に着手することは、今更ながらに重要である。「学習支援センター」を充実させて保育、英語、英コミを問わずその基礎的学力を伸ばす。また、「英語教育センター」の設置による首尾一貫した英語教育の充実を図る。

向上心のある学生の実力を伸ばすことのできる目的を設定し、それに達する方法論を模索、確立していく。又、カリキュラム改革によって、教育をより魅力あるものへと改善・展開して高い教育の質保証を行う。又、奨学金を最も必要とする学生に行き渡る、より効率の良い仕組みを構築する。学生の将来のための資格取得の幅を広げることも重要である。この為、他大学等の教育組織との連携による資格取得・検定合格を拡充させていくことは、学生達の将来のキャリアの可能性を広げるものである。アジアを中心とした海外との交流プログラムを推し進める。これらの学び・交流・奨学金のプログラムを相互に関連づけて、より効果的な教育の成果を得ることによって、将来の沖縄社会を支える実力を有する学生を育成する。

又、ハード面では、快適なネット環境の整備と共に安心・安全・便利な学校施設の拡充を行って、学生の豊かなキャンパスライフを支援する。すでに行った建物の診断を基に、より広い用途を持った教育的施設に改装する。これに並行して学生のクラブ活動を如何に活性化させるのかも課題である。

## 中長期目標Ⅱ．沖縄社会とアジアと世界への貢献

本学の教育の方向性は、「沖縄」と「国際」の二つ即ちグローバルに展開される。本学院はこれまで「沖縄」の幼児教育の歴史に着実な軌跡を残してきた。その教育をより高度なものに発展させることで、地域により密着したものにする。沖縄の地域的個性とともに普遍的なキリスト教主義と平和の思想を持った教育の担い手を世に送り出すことは、地域を持続的に豊かにするための基本的な重要事項である。これに相まって、沖縄の文化・言語についての教育を高度なものに発展させる必要がある。

「国際」を指標する教育においては、本学がこれまで基幹とした英語のみならず、韓国・台湾・フィリピン等アジアの言語と関連する社会・文化・歴史などの学びを充実拡張して交流を深める。これにより、広く深い国際理解の力を涵養して皮相的な隣人（国・地域）理解を脱して、グローバルレベルで相互間の橋渡し（津梁）を可能なものとする。特に緊張関係の高まるアジアの状況において、本学院が「アジア地域における平和構築の中心であるべき」（ヨハン・ガルトゥング）沖縄の教育機関であることを覚え、歴史的学びを踏まえた草の根のアジアとの交流を通して学生たちが主体となり、共生・協働へ向けた新たな平和的関係性を担う人材の育成を目指す。また、多様なバックグラウンドを持ったマイノリティーの人々と共生・協働することによって地球市民としての感性と自覚を涵養する。これらは持続可能な人類の未来には不可欠である。

具体的な交流の担い手の育成に向けて、平和産業である「観光」と関連ビジネスは、これからも沖縄の基幹産業として発展が予測される故にその担い手を育てる。深い交流は、深い他者理解と共に自己理解を伴い、平和を担う大切な感性を育む大きな機会となるであろう。世界に開かれた人材が沖縄にとっても益となることを期する教育を目指す。

## 中長期目標Ⅲ．財政状況の改善・強化

冒頭に記したように、現在の本学を取り囲む環境は予断を許さない。入試や中退学などの厳しい状況を乗り越えるために、組織の改組、改編が必要である。新学部・学科・コースの設置についてのこれまでの歩みの検証と方向性を定める作業を始める。

カリキュラムを含むあらゆる面でのスリム化と集中化に取り組む。また、上記のような改革を通じた、教育成果を社会に発信するブランディング構築と作業によって、本学の教育内容の充実とその成果を世に示して評価される必要がある。また、教育の将来的展望を開き、その幅を広げるために新学科等の設置申請の作業を再度検討して前進させる。

# 1. 中長期目標を達成するための2024年度取り組み結果

## 中長期目標Ⅰ. 教育の充実と学生の満足度向上

### (1) 教育プログラム改善による教育の質の保証

#### ① 教学マネジメントの確立とそれに基づくPDCAサイクルの実施

アセスメント実施スケジュールに基づき点検・評価を実施し、学科及び教学マネジメント委員会において改善に向けた取り組みを行った。

修学ポートフォリオを用いた学修(学習)成果の把握、及び学生生活実態調査/満足度調査等、IRによる教学関連の結果報告から、ディプロマ・ポリシー達成に向けたカリキュラムの適切性の検討、学修(学習)成果向上に向けた教育活動の見直しに取り組んだ。

#### ② カリキュラム編成の見直し、改善

学生の体系的履修を促すため、「カリキュラム・マップ」及び「カリキュラム・ツリー」等を活用した履修指導を実施した。また、英語コミュニケーション学科、地域こども保育学科においては2025年度教育課程改正に際し、「カリキュラム・マップ」「カリキュラム・ツリー」の見直しを検討、改定作業に取り組んだ。

#### ③ 修学ポートフォリオを活用した学生の学修(学習)成果の向上

学修(学習)成果の可視化、及び学修(学習)成果向上に向け、学生による修学ポートフォリオ活用の推進と、教員による修学ポートフォリオを活用した学生指導の実施に取り組んだ。

#### ④ 「英語教育センター」設立による英語教育の充実

英語教育センターを2023年度に設置した。2024年度活動として、英検二次試験対策集中講座を3回実施し、英検二次試験合格率87.5%を達成した。また、オンライン自主学習ツールのEnglishCentralを英語コミュニケーション学科1年生全員に導入したところ、平均17時間の自主学習が行われた。

学習支援システムであるEnglish Contact Cornerは前期と後期に提供され、一回90分のセッションが週4回行われ、毎週2～5人の学生が参加した。

#### ⑤ 学習支援センターの強化

※2024年度より学習支援センターでの全学的な学習支援スタイルを廃止し、各学科の学生の状況やニーズに合わせた「学習支援・サポート等」の取り組みを学科毎に組織的に取り組む体制とした。(2023年度第9回大学運営協議会)

##### 【人文学部 英語コミュニケーション学科】

学生が主体となって活動する「スタディー・グループ」のサポートを行った。2023年度より始まった学生自身によるスタディー・グループは、ピア・サポートの精神のもと、学生が中心となり英語学習やプレゼンテーション技術など、支援を必要とする学生たちを集め、課題を共有し共に解決へ向けて行動した。定期的に学生たちの活動の様子をモニターしながら、告知の協力や活動に必要な備品などがあれば、学科が提供する体制を整えた。

##### 【地域こども保育学科】

「サポートの必要な入学者」について、関係部署と連携して、学習支援や生活支援等を行った。

### (2) キャリア教育と就職支援の充実

#### ① 就職・進学率及び正規雇用率の向上

各学科ともに就職内定率の数値目標は達成できたが、正規雇用率は達成できなかった。

#### ② キャリア教育プログラムの充実

キャリア支援課と各学科が連携しプログラムを実施している。また、求人情報アプリを活用(2年生から登録)し就活の意識づけを行っている。

#### ③ 資格取得支援(準正課・正課外)の充実

英検・TOEIC対策講座については年2回実施し、1回は英検・TOEIC対策講座を専門にしているECC外語学院によるオンライン講座を初めて実施した。

### (3) 学生支援の充実

#### ①奨学金制度の見直しによる修学支援の充実

高等教育の修学支援新制度が 2024 年度から中間層の多子世帯へも拡充され、学生及びオープンキャンパスにおいても奨学金・授業料減免制度の周知に努めた。また、2024 年度は学外団体による奨学金を 4 名が受給した。

#### ②中退学率の減少

学生カードや奨学金情報を学生課と学科が共有し、学生面談に活用した。

2024 年度間中途退学率は、英語コミュニケーション学科 3.75%、観光文化学科 5.26%、英語科 5.77%、地域こども保育学科(保育科) 5.93%となった。

#### ③学生生活支援の充実

2021 年度にリニューアルした学生ユニオンが新しさと明るさを兼ね備えており、学生の憩いの場として活用されている。

#### ④課外活動による学生生活の充実

学生会が主体となり、大学祭を開催した。県内の高校ダンス部を 4 校招聘し、照明と音響を駆使した会場で出場者・観客も大変盛り上がった。本学らしい取り組みとして卒業生の協力も得て人形劇など子ども向けの出し物も数年ぶりに復活した。

### (4) 海外研修プログラムの充実

#### ①既存プログラムの見直し

コロナ禍と費用高騰の影響で中止が続いていた海外幼児教育研修(ハワイ)を 5 年ぶりに実施した。

#### ②新規プログラムの構築

2024 年 6 月に学長が韓国の韓信大学校を訪問し、交換留学に係る協定を締結した。これを受け、2025 年度本学より観光文化学科の学生 1 名が在学留学特別奨学金を活用して交換留学することが決定した。

### (5) 安全、安心、快適なキャンパス整備事業計画

#### ①大規模修繕計画に基づくキャンパス全体の教育環境の整備と緑化事業の推進

大規模修繕工事を観光文化学科完成年度まで凍結中であるが、2023 年度に計画した地域こども保育学科特別教室の北 2-5(絵画教室)、北 2-6(栄養実習室)の改修工事および北棟エアコンの更新を行った。また、図書館整備においてラーニングコモンズには着手できなかったが、次年度に盗難防止システム(入退館ゲート無しタイプ)の導入が決まった。

#### ②ICT を活用した教育システムの構築

教室 PC リプレイスの 3 年計画の 3 年目にあたる 2024 年度は、S2-7 教室の PC48 台のリプレイスが完了した。また、BYOD(Bring Your Own Device)に関する学生アンケート調査の結果、全体で 65%の学生がノートパソコン(またはタブレット)を持ち込んで、学内利用していることが分かった。

#### ③キャンパス再開発計画

西原町の協力により設置したおゆずりゾーンの下课時の渋滞緩和における効果の検証方法を検討した。また、北棟屋根付き駐車場の安全対策に防犯カメラを設置した。

### (6) 観光文化学科の取り組み

#### ①海外研修(異文化交流)の取り組み

2025 年度の初回実施に向けて、シラバス及び研修プログラムの策定を行い学生に対する説明会を実施した。学生の意向調査結果を踏まえ、2025 年度は 4 ヶ国・地域/4 大学で研修を行う方向で準備を進めた。

## 中長期目標Ⅱ．沖縄社会とアジアと世界への貢献

### (1) 沖縄地域社会への貢献

#### ①SDGs 活動を通じた持続可能な沖縄社会実現への貢献

ジェンダー平等推進委員会設置は、観光文化学科の教員含め検討するための準備を進めた。  
生理の貧困問題の解決に取り組む学生サークル「Ladybird」の活動が学外で注目され、各種メディアより取材を受けるとともに、2024年11月には「未来をつくる こどもまんなかアワード」で内閣府特命担当大臣表彰を受賞した。

#### ②沖縄の幼児教育への貢献

沖縄県内の保育・幼児教育に関する調査や要請に基づく保育者への研修、西原町保育連絡協議会との連携事業を行った。

#### ③キリスト教を基礎とした社会貢献活動

「隣人愛」への学びに関してキリスト教関連科目にて実施した。また、学外における社会貢献活動として、愛隣園でのボランティア活動を2回行った。

#### ④近隣自治体、企業団体等との連携

西原町との包括連携協定に基づき、意見交換会、理科教育支援事業、学校教育支援授業、保育科学生対象の特別講義の取組みを行った。

#### ⑤近隣高校との連携

西原高等学校との包括連携協定のもと、大学・短大授業への高大連携生の受入れや、大学教員による西原高等学校への出前講座等を実施した。

また、本学の教員が県内高校を訪れて専門分野に関する講義を行う出前講座は、8校で20回実施した。

### (2) アジアと世界への貢献

#### ①アジアの学びと交流、マイノリティーへの学びと理解、沖縄・自己の理解の深化

英語コミュニケーション学科では、ゼミ生以外の学生も参加し、ハワイ研修を実施することができた。多文化共生社会の担い手としての自覚や認識を深める機会を提供することができた。

#### ②留学生の受け入れ計画

6月に学長が韓国の韓信大学校を訪問し、交換留学に係る協定を締結した。協定に基づき2025年度に3名の交換留学生を受け入れる予定である。

### (3) 観光文化学科の取り組み

#### ①企業団体等との連携、取り組み

県内団体・企業の協力のもと、フレッシュマン・セミナーⅡにおいてブライダル特別寄付講座を開催し、その成果発表の場として、本学チャペルを利用した模擬挙式を実施した。また、ホテル、空港等様々な観光施設の見学を行い職業理解を深め、バスガイド、ブライダル専門家、新聞記者、CA、ホテルエ、琉球歴史文化研究者など多彩なゲストスピーカーに出講いただき、実践的な教育の場を設けることができた。このほか、本学科教員もパネリストとして参加した観光文化イベントに本学科の学生全員が参加し、伝統芸能観光コンテツの魅力を学ぶ機会を設けた。

#### ②大学間連携への取り組み

県内の観光系学科・プログラムを有する大学との交流を展開すべく、手始めとして琉球大学観光地域デザインプログラムの教員と意見交換を行い、今後、協力関係を築き各種連携の取り組みを進めることとした。また、同大学と本学科間で非常勤講師やゲストスピーカーの相互派遣を行い、卒業研究に対する助言等を行った。

### ③地域連携への取り組み

内閣府や沖縄県などが進める委員会に本学科教員が参加し、沖縄の地域振興・観光振興に寄与する諸活動を行った。特に、沖縄県宿泊税検討委員会では、本学科の教員が難航する提言書のとりまとめにあたり、委員長として積極的な役割を担った。

## 中長期目標Ⅲ. 財政状況の改善・強化

### (1) 安定的な学生の確保

#### ① 志願者の増加

ガイダンスへの参加を優先的に行った。オープンキャンパスについては昨年度同様 6 回の実施とした。

#### ② 入学者の安定的確保と収容定員 1.0 倍の確保

英語コミュニケーション学科は 2025 年度入学者数が前年度より減少したが定員を満たすことができた。観光文化学科は 2025 年度入学者数が定員を満たすことはできなかったが前年度より増加し、次年度以降へ弾みを付けた。地域こども保育学科に関しては前年度同様入学定員を満たせず課題を残した。

#### ③ 入試制度の見直し

外国人留学生向け募集資格の微調整は行ったが、その他大きな変更はしていない。

英語コミュニケーション学科では、通信制高校からの志願者が不利にならないような書類審査項目や配点の見直しを行った。

#### ④ 戦略的な募集活動と募集活動の質の向上

定期的な高校訪問に加え、各種ガイダンスへの参加も継続して行った。受験対象学年外の方向けのプログラムも継続的に実施した。

英語コミュニケーション学科では、学生会及び在学生の協力を得て、高校生目線での学科紹介の取り組みを行うことができた。

また、新学科である観光文化学科の認知度向上を目的に、バス車内アナウンス広告を実施した。

### (2) 広報戦略の強化

#### ① 大学広報体制の構築・強化

広報強化に向けた取り組みとして、ソーシャルメディアを活用し、積極的な情報発信を行った。また、本学や学生生活動に関する情報が新聞記事等で多く取り上げられた。

### (3) 教育コンテンツを活用した収入増加への取り組み

#### ① 学外向け講座等の拡充

教育資産(保育、幼児教育や英語)を活用し、公開講座「同時通訳中級」を県外離島のニーズに合わせてオンライン、「字幕翻訳入門」を学内の同時通訳システムを活用し対面で提供した。また「うちなーぐち講座」を対面開催し高校生から 70 代までの幅広い年齢層に学びの機会を提供できた。

### (4) 新学部・学科設置、改組

#### ① 建学の精神と本学の特色を活かした学部学科設置の検討

2024 年 4 月、沖縄キリスト教大学院大学人文学部「観光文化学科」を設置した。また、短期大学保育科の名称を「地域こども保育学科」に変更した。

定員充足、就学支援新制度、経常費補助金獲得のための取り組みを検討した。また、新設置基準に沿った基幹教員の配置を検討した。

## (5) 組織改編、統廃合による業務の効率化・経費削減と経営・ガバナンス強化

### ① 組織のスリム化

人件費依存率の抑制のため、非常勤教員の人件費削減について学科単位で目標値を設定した。沖縄キリスト教平和総合研究所業務は、財政状況が改善されるまで事業凍結を継続した。

### ② 法人と教学の連携強化と監事機能の強化

会計士及び役員との意見交換を行った上、監事監査計画に基づいた監査を実施し、理事会・評議員会に報告した。

理事会・評議員会において、ハイブリット開催を継続し、会場及びオンライン出席者の双方向から意見を受けることができ、学外理事や学外評議員が参加しやすい環境を維持した。また、2025年4月に向け私立学校法改正に伴う寄附行為の改正を行った。改正私立学校法で求められている評議員会の機能強化や監事と会計監査人の連携による監査体制を整えた。

### ③ 体系的 SD による人材育成と人員計画

監事が講師となり本学の財政状況について学ぶ SD 研修を開催し、98%が満足・大変満足との高評価であった。

### ④ 積極的な情報公開

本学公式ウェブサイト内「情報の公表」において、教育研究活動の状況や、各種アンケート(授業改善アンケート、学生生活実態調査、学生満足度調査等)の IR 分析データ及び調査報告を公開している。

## (6) 財政計画・財政基盤強化

### ① 財政健全化計画と資産積み立て計画の策定

大規模修繕計画「保育科特別教室等改修工事」(北 2-5・北 2-6 教室他)が 2024 年度に完成した。大規模修繕を含む施設設備等経費は、第 2 号基本基金引当特定資産、大学拡充経費引当特定資産、減価償却引当特定資産から充当し、退職給与引当特定資産の積み増しを行った。

### ② 外部資金獲得への取り組み

科研費獲得に向けた取り組みとして、申請への関心を高める目的で、科研費の概要に関する SD 研修を実施した。

また外部助成金として、地域振興研究助成金の採択が短大2件あった。

### ③ 人件費の安定化と働き方改革への対応

学習支援課専門職員(IT 関連)を専任職員から業務委託に切り替え専門人材確保の安定化を図った。事務職員の安定的な人員確保及び年齢構成の健全化に向け、計画的な事務職員公募を実施し、2024 年度 1 名、2025 年度 2 名を新規採用した。

一般事業主行動計画(5 年計画)を策定し、育児休業取得率 100%および時間外労働時間の短縮を提案した。また、人件費削減も含めた財務状況改善計画を策定した。

## (7) 観光文化学科の取り組み

### ① 学生募集の取り組み

学科設立初年度であるため、認知度向上のため、通信高校や夜間制の高校も含め、県内各高校を積極的に訪問したり、模擬授業を行ったりした。また、ホテルにおける SDGs の取り組みの見学や、香港の高校生との交流会、LGBTQ+ 模擬挙式の開催などの取り組みは、学内外のメディアを通じて対外的にもアピールすることができた。

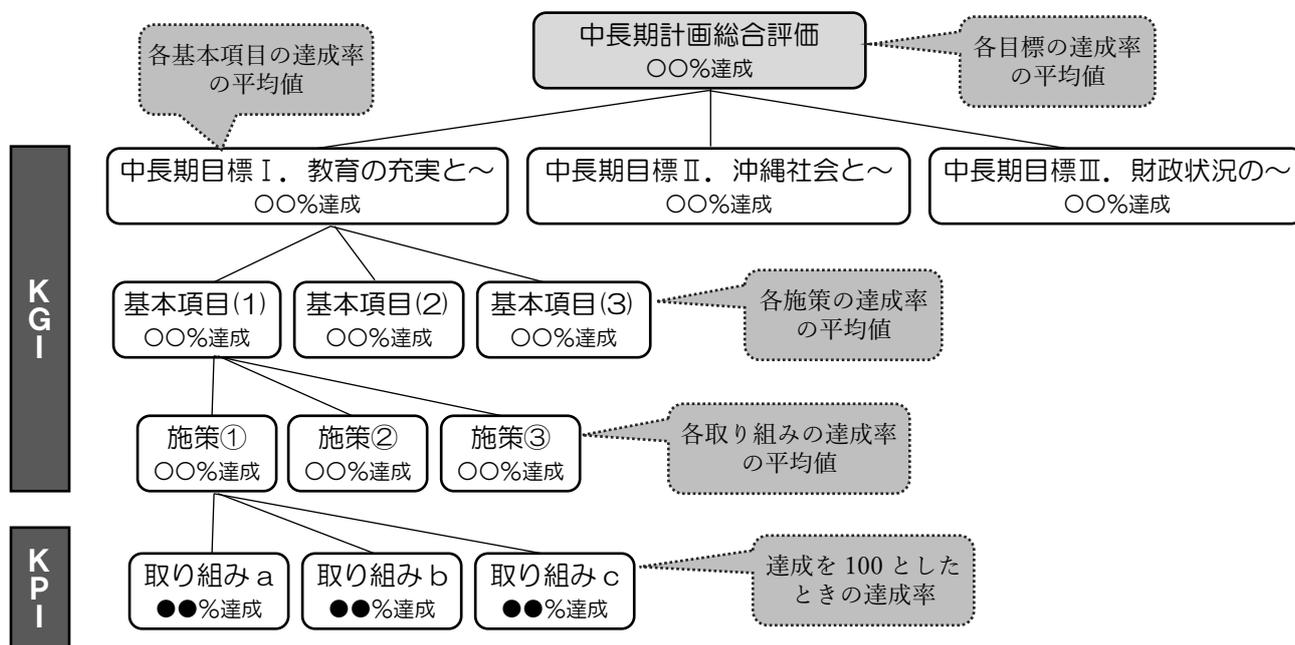
## 2. 中長期計画アクションプランにおける各指標の単年度達成度結果

(1) 第5次中長期計画では、「2. 基本方針・ビジョン」を踏まえた基本項目及び施策における主な取り組みを設定したアクションプランを策定し、計画の達成状況を可視化するため、KGI\*1及びKPI\*2の指標を取り入れている。

※1 KGI (Key Goal Indicator) : 重要目標達成指標

※2 KPI (Key Performance Indicator) : 重要業績評価指標、KGI を達成するためのプロセスの進捗を測る

[中長期計画の指標化イメージ]



(2) 2024年度の達成度結果は以下のとおりである。

【第5次中長期計画 達成度状況】

中長期目標／基本項目／施策	2022年度 達成度(%)	2023年度 達成度(%)	2024年度 達成度(%)
<b>中長期目標Ⅰ. 教育の充実と学生の満足度向上</b>	<b>40.9</b>	<b>47.8</b>	<b>72.4</b>
<b>(1) 教育プログラム改善による教育の質の保証</b>	<b>51.4</b>	<b>74.6</b>	<b>87.9</b>
① 教学マネジメントの確立とそれに基づくPDCAサイクルの実施	78.2	90.8	90.0
② カリキュラム編成の見直し、改善	73.9	82.8	81.8
③ 修学ポートフォリオを活用した学生の学修(学習)成果の向上	55.0	64.4	67.8
④ 「英語教育センター」設立による英語教育の充実	30.0	100.0	100.0
⑤ 学習支援センターの強化	20.0	35.0	100.0
<b>(2) キャリア教育と就職支援の充実</b>	<b>35.0</b>	<b>44.1</b>	<b>56.2</b>
① 就職・進学率及び正規雇用率の向上	50.0	75.0	90.0
② キャリア教育プログラムの充実	20.0	54.2	71.2
③ 資格取得支援(準正課・正課外)の充実		3.2	7.5
<b>(3) 学生支援の充実</b>	<b>33.3</b>	<b>58.8</b>	<b>78.8</b>
① 奨学金制度の見直しによる修学支援の充実	0.0	65.0	65.0
② 中退学率の減少	25.0	50.0	50.0
③ 学生生活支援の充実	63.0	100.0	100.0
④ 課外活動による学生生活の充実	45.0	20.0	100.0
<b>(4) 海外研修プログラムの充実</b>	<b>18.0</b>	<b>17.5</b>	<b>35.4</b>
① 既存プログラムの見直し	0.0	15.0	37.5
② 新規プログラムの構築	36.0	20.0	33.3
<b>(5) 安全、安心、快適なキャンパス整備事業計画</b>	<b>66.7</b>	<b>43.8</b>	<b>76.3</b>
① 大規模修繕計画に基づくキャンパス全体の教育環境の整備と緑化事業の推進	100.0	25.0	60.0
② ICTを活用した教育システムの構築	50.0	76.4	96.4
③ キャンパス再開発計画	50.0	30.0	72.5
<b>* (6) 観光文化学科の取り組み</b>			<b>100.0</b>
① 海外研修(異文化交流)の取り組み			100.0
<b>中長期目標Ⅱ. 沖縄社会とアジアと世界への貢献</b>	<b>27.6</b>	<b>42.2</b>	<b>62.8</b>
<b>(1) 沖縄地域社会への貢献</b>	<b>55.2</b>	<b>84.3</b>	<b>66.1</b>
① SDGs活動を通じた持続可能な沖縄社会実現への貢献	12.5	55.0	25.0
② 沖縄の幼児教育への貢献	100.0	100.0	100.0
③ キリスト教を基礎とした社会貢献活動	30.0	100.0	100.0
④ 近隣自治体、企業団体等との連携	33.3	66.7	55.7
⑤ 近隣高校との連携	100.0	100.0	50.0
<b>(2) アジアと世界への貢献</b>	<b>0.0</b>	<b>0.0</b>	<b>50.0</b>
① アジアの学びと交流、マイノリティーへの学びと理解、沖縄・自己の理解の深化			0.0
② 留学生の受け入れ計画	0.0	0.0	100.0
<b>* (3) 観光文化学科の取り組み</b>			<b>72.2</b>
① 企業団体等との連携、取り組み			66.7
② 大学間連携への取り組み			100.0
③ 地域連携への取り組み			50.0

中長期目標Ⅲ. 財政状況の改善・強化	55.7	71.9	88.8
<b>(1) 安定的な学生の確保</b>	<b>65.9</b>	<b>86.5</b>	<b>93.2</b>
①志願者の増加 (※達成度は志願者増に向けた取り組みに対する数値)	100.0	87.7	100.0
②入学者の安定的確保と収容定員1.0倍の確保	33.0	87.5	95.0
③入試制度の見直し	66.7	100.0	100.0
④戦略的な募集活動と募集活動の質の向上	63.8	70.8	77.9
<b>(2) 広報戦略の強化</b>	<b>52.0</b>	<b>90.6</b>	<b>96.0</b>
①大学広報体制の構築・強化	52.0	90.6	96.0
<b>(3) 教育コンテンツを活用した収入増加への取り組み</b>	<b>43.3</b>	<b>50.0</b>	<b>100.0</b>
①学外向け講座等の拡充	43.3	50.0	100.0
<b>(4) 新学部・学科設置、改組</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>	<b>100.0</b>
①建学の精神と本学の特色を活かした学部学科設置・改組の検討	100.0	100.0	100.0
<b>(5) 組織改編、統廃合による業務の効率化・経費削減と経営・ガバナンス強化</b>	<b>32.8</b>	<b>59.2</b>	<b>70.0</b>
①組織のスリム化	10.0	26.7	86.7
②法人と教学の連携強化と監事機能の強化	83.3	100.0	83.3
③体系的SDによる人材育成と人員計画	33.0	40.0	30.0
④積極的な情報公開	5.0	70.0	80.0
<b>(6) 財政計画・財政基盤強化</b>	<b>40.1</b>	<b>45.3</b>	<b>62.3</b>
①財政健全化計画と資産積み立て計画の策定	96.3	92.5	91.5
②外部資金獲得への取り組み	14.0	33.5	45.4
③人件費の安定化と働き方改革への対応	10.0	10.0	50.0
<b>* (7) 観光文化学科の取り組み</b>			<b>100.0</b>
①学生募集の取り組み			100.0

※達成度は、各項目に紐づく取り組み内容における達成度の平均値である。

※達成度が斜線部分は、当該年度に取り組みが設定されていない項目である。

\* 2024年4月 沖縄キリスト教学院大学人文学部 観光文化学科を設置した。